［認知症対応型共同生活介護用］

1. 調査報告概要表

作成日 ################

【評価実施概要】

事業所番号	3170300531
法人名	医療法人社団　日翔会
事業所名	グループホームつばき
所在地 （電話番号）	鳥取県倉吉市余戸谷町3051番地1 （電　話）0858－23－0051

評価機関名	有限会社　保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2－1－1
訪問調査日	平成21年3月24日

【情報提供票より】（　21年　2月　28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18年　3月　27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	14　人	常勤　14人，非常勤　8人，常勤換算　7人	

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建て の　1 階　～　2 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	51,000　円		その他の経費（月額）	12,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　800　円			

（4）利用者の概要（　2月　日現在）

利用者人数		18 名	男性　3 名	女性	15 名
要介護1		4　名	要介護2	7	名
要介護3		5　名	要介護4	2	名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	86 歳	最低　82 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	萬治医院　谷口歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

倉吉市の静かな住宅街に位置し、ホームの前には小川が流れ自然環境も良い。ホームの中は明るく、利用者達はゆっくりと安心した表情で暮らしておられる。運営推進会議での活発な意見交換あり、地区自治会や地域町内会からの信頼度も高くなってきている。地域との交流が盛んで地域の高齢者施設として基盤が構築されつつある。基幹の法人は高齢者ケアに特に熱心で計画的に職員教育をされている。今年度新たに赴任された管理者もその理念「利用者がしたいと思う事が出来るように支援しよう」はゆるぎなく、職員一同日々悩みを話し合いながら切磋琢磨している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の評価での改善課題は新しい管理者が着任したことで改善へと取組みが進んでいる。①職員の異動、減少。②利用者の個別外出支援　③往診可能なDrの確保により重度化や終末期の対応も検討中。持ち越し課題①災害時の地域との協力体制つくり。②法人外の同施設との相互交換研修・・・について一層の努力される事を望みます。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

外部評価・自己評価を基に、法人内で年1回ケアの評価機関を設けサービス改善に取り組んでいる。毎月その進捗状況を把握し、指摘事項の改善に全員で取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は2ケ月1回開催されている。利用者と一緒に食事会を行なうなど認知症の実際を見てもらいその理解への実践もなされている。毎回、家族代表2名・利用者1名も参加され活発に意見・助言をいただき、サービス向上に活かしている。利用者の中に成年後見制度や権利擁護の制度を利用している方もあり、福祉課の担当者等と度々話し合いながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

施設玄関に意見箱があるが利用は殆どない。家族連絡記録用紙があり、電話内容や面会時の意見など個別に記録されている。半年に1回位の頻度で施設行事に家族参加してもらい家族が意見を言える機会を設けている。直接の意見や苦情に対しては受付表に記録・報告し対応を検討、運営に反映させている。その結果は対応策を施設玄関に掲示し家族や外部へ回答している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

自治会に加入、運営推進会議を通して公民館行事への誘いがあり、観月会・紅白歌合戦など積極的に参加している。地区住民より施設行事に参加したいとか「お助け隊」結成したので気軽に声かけて欲しいなど相互の交流が始まりつつある。日常的に近所のアパート住民が子供を連れて遊びに来れている。地区に出かけて「認知症ケア教室」実施の計画もある。

2. 調 査 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者がしたいと思う事が出来るように支援しよう」と事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者とのかかわりの時間を多く持ちたいと提案し昼食作りは厨房に頼んだ。結果個別の外出が日常的に可能となり、それぞれに寄り添う支援が出来るようになった。新しい管理者と共に全職員が理念の実践に向けて日々取り組んでいる様子がうかがえた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、運営推進会議を通して公民館行事への誘いがあり、観月会・紅白歌合戦など積極的に参加している。地区住民より施設行事に参加したいとか「お助け隊」結成したので気軽に声かけて欲しいなど相互の交流が始まりつつある。日常的に近所のアパート住民が子供を連れて遊びに来れている。地区に出かけて		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価を基に、法人内で年1回ケアの評価機関を設けサービス改善に取り組んでいる。毎月その進捗状況を把握し、指摘事項の改善に全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ケ月1回開催されている。利用者と一緒に食事会を行なうなど認知症の実際を見てもらいその理解への実践もなされている。毎回、家族代表2名・利用者1名も参加され活発に意見・助言をいただき、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の中に成年後見制度や権利擁護の制度を利用している方もあり、福祉課の担当者等と度々話し合いながら共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	地区に出かける「介護教室」は、是非、市町村と合同で出来るように計画し、市町村と役割分担しながら、市町村と共にサービスの質の向上に取り組まれる事を期待しています。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「毎月のお便り」で職員の異動や行事予定などのお知らせや担当職員が利用者の日常生活を詳しくコメントしてとして家族へ送っている。金銭管理については家族が面会時に収支を確認してもらい署名捺印頂いている。又、家族連絡記録用紙があり、電話内容や面会時の様子など個別に記録されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱があるが利用は殆どない。半年に1回位の頻度で施設行事に家族参加してもらい家族が意見を言える機会を設けている。直接の意見や苦情に対しては受付表に記録・報告し対応を検討している。その結果、対応策を施設玄関に掲示し家族や外部へ回答している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職時には利用者の情報を細かく申し送る等引継ぎ面で最善の努力をされている。家族には毎月の家族便りに掲載しお知らせしている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「職員の出来ている事を褒めて、できない事をしからない」新しい管理者の方針が職員の勉学意識を高めている。法人としては、経験に応じた研修等が活発に行われ、なるべく多くの職員が受講できるように勤務調整に工夫をしている。又、個人の目標を定め、目標達成の為の支援を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワーク作りも出来ている。県や地域で行なわれる研修会や勉強会の参加を積極的に支援し、その機会を利用して他施設の職員との交流も図っている。	○	地域の同業者ネットワークを利用して、関連の事業所や同時期に開所した事業所などと交換研修等を通して貴法人以外の人材の意見や経験をｹｱに活かされると良いでしょう。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に必ず自宅訪問と施設見学・サービス内容を体験してもらう。併設している通所を利用等で職員等と顔なじみになってから入所されるケースも多くある。家族とも相談し使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでもらい場の雰囲気作りの工夫をしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と並んで座って過ごし、時間と場を共有して馴染みの関係を作る。日々の生活をともに楽しみながら家族のような関係になれるよう努力をしている。調理・洗濯・掃除・野菜つくり・裁縫など生活の知恵を多く学びながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の思いや希望が言えるような関わりを工夫している。又、家族や知人から得られた入居前の生活情報を基に馴染みの暮らしが継続できるよう支援している。思いを表出し難い方は言葉にならない思いを職員が気付く努力をし本人本位になるよう検討している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	「利用者が自分らしく・自分なりの生活ができるよう」日ごろの生活ぶりや本人の言葉を記録に残し利用者本位の介護計画が出来るように、関係者の面会時の意見や職員の気付きの記録など踏まえて課題となる事をカンファレンスで話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングでプラン修正が必要かどうかのチェック、毎日のケア記録「利用者の訴えや要望」も計画見直しに取りいれている。見直し期間以前に変化が生じた場合は,話し合い新たな計画を作成している。半年毎のケア評価を家族に説明し要望を取りいれている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと連携しながら、行事参加できる機会を多く作っている。又、医療面でのアドバイスが必要な時には、デイサービスの看護師の協力を得ている。なお通院など家族の都合のつかないときや緊急時は職員が付き添い対応している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どが利用者・家族が希望される入居前のかかりつけ医に継続して通院してもらっている。精神科や心療内科に通院している方もあり、Drとは日頃の状況を管理者が報告しｺﾐﾆｭｹｰｼｮﾝを取り合っている。毎月往診できる医師もあり、いつでも電話で相談し適切な指示をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としては終末期のあり方についての決まりはない。家族が希望された場合は、医師・看護師・家族・管理者・及び施設職員を交えたチームカンファレンスを行ない、家族の要望を踏まえ希望に添えるように話し合いを行なっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、個々に合わせた言葉かけ、対応が行なわれていた。記録用の個人ファイルは食堂の一角に整理しておかれていたがその背表紙には個人名はなく部屋の名前やイニシャルで表示し個人情報の管理も徹底されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「無理強いせずに、本人のペースを大切にする」事を全ての職員が意識して、利用者の希望に添えるように配慮しながら柔軟に日々の生活を支援されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調査日のメニューは春の魚「鰆の煮つけと狸汁」、職員も一緒にテーブルを囲み楽しく会話しながらの食事。「刺身が食べたい！」等希望があれば外食も計画。車椅子を利用でも積極的に配膳を手伝う、隣の人の茶碗も一緒に片付けるなど利用者の前向きな意思や気持ちを大切に、見守り支援されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めずに、タイミング゛に合わせて声かけをし入浴を楽しんでもらっている。入浴を拒む方の場合は時間を置いて声かけたり次の日にする等本人の気分や体調に合わせて支援されている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の盛り付けや配膳、食器洗いなど能力に応じた役割があり、生き生きとした表情を見る事が出来た。又、手作りのお雛様や椿の花の壁絵も利用者と職員の合作で自慢の作品で楽しみながら日々を過ごせる支援をされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買物希望のある方、馴染みの美容院を継続して利用したり、誕生日の特別外出など個別対応で外出のチャンスが多くなっている。また、天気の良い日には施設周りの草花を眺めながらの散歩や季節行事として近くの打吹山まで出かけ自然を愛でる支援をされている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束・言葉によるロックをしないケアに取り組んでいる。外出したくなった利用者にはスタッフがそっと寄り添って散歩している。「無理強いせずに、本人のペースを大切にする」事で穏やかな生活を提供されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、利用者と共に避難訓練・消火訓練を消防署の協力を得て実施している。災害時用の備蓄も食糧と水の確保はできている。しかし、地域との協力体制には至っておらず今後の課題である。	○	住宅街の中に立地の地の利を生かし、地震や水害時には地域の拠点施設としても活動できるよう運営推進会議を利用して、まず地域住民に防災訓練参加を働きかける事から始め、日ごろより地域の人々との協力体制が構築できとよいでしょう。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が、併設のデイサービスの昼食も一緒に栄養バランスやカロリーなどを管理し、スタッフは食事量や水分量を把握記録されていた。食が進まない利用者には本人が好む物・食べたいという物をスタッフが特別に作って提供するなど個別習慣に応じた支援がなされていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外には箱植えの菜の花が満開、中に入ると手作りの壁絵 椿が目に飛び込んでくる。共用空間は何れも採光が十分に取れ昼食の味噌汁の香りが漂ってくる。角を利用した畳の間が食堂と居間、二つの空間を作り出しているし、廊下の突き当たりもベンチがセットされひとりになれる場所作りの工夫がされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは馴染みのタンスが持ち込まれ 在宅生活の継続が感じられる。布団の乱れも本人が「また 直ぐに寝るのにこれでいいの」と言われると、無理強いしない心遣いがうれしかった。		